

# JKホールディングス株式会社

## HA導入による2重化体制が 劇的なサーバー統合を支える

### POINT ●30台のAS/400分散環境から1台のSystem iへ統合

- Bitis HAによる2重化体制がサーバー統合を支援
- 各種の独自機能でデータの整合性を完全に維持

### COMPANY PROFILE

設立：1949年  
本社：東京都江東区  
資本金：26億円  
売上高：2930億3800万円(2008年3月期・連結)  
従業員数：169名  
<http://www.jkhd.co.jp/>

### 30台のAS/400分散体制を 段階的に完全統合へ

JKホールディングスは、住宅建設資材の専門商社として業界トップの実績を誇るジャパン建材を中核に、住宅関連企業をグループ傘下に展開する純粋持株会社である。

以前はジャパン建材を東証一部上場会社とし、その子会社でジャパン建材グループを構成していたが、グループ経営を円滑に進める上で、建材卸売事業もグループの1事業部門として管理していく必要があると判断し、2006年10月に現体制へ移行した。

その際、グループ全体のシステム開発機能を強化するため、ジャパン建材の情報システム部門を分離し、JKホールディングスへ統合した。現在同社のIT課は、ジャパン建材および子会社や関係会社からなるグループ101社のIT構築・運用を支援している。

同グループでは1990年頃からAS/400上で販売管理および財務会計システムを開発し、長く運用を続けてきたが、全国各地の拠点にAS/400を合計30台設置するという典型的な分散環境を構築していた。しかし運用管理業務の負荷が増大の一途を辿ったため、1990年代中頃からサーバー統合に着手した。サーバーリプレースのタイミングに合わせて、段階的に統合を進め、1990年代後半には、全国で7台体制にまでサーバー統合を進めた。そして純粋持株会社へ移行した2006年10月時点では、東京・大阪・仙台・福岡の各エリアを統括する4台のSystem i (9406-830が1台、9406-820が3台)を運用。

そして今年5月にはさらに、1台のSystem i (9406-550)へ完全統合を果たしたのである。この際、バックアップ機としてもう1台のSystem i (9406-525)を導入し、HA(ハイ・アベイラビリティ)ソリューションである「Bitis HA」(ビーティス)を利用した2重化

体制を構築している。

「以前の30台体制に比べれば運用管理業務はかなり軽減していますが、それでも4エリアで4台とは言え、プログラムの開発や修正・削除、運用管理、地域的なカスタマイズなどの作業がサーバー個別に発生します。また販売データの集計も各サーバーから集めるなど、システム部門の業務を圧迫していました。今回、1台に完全統合できたことで、そうした開発・運用両面の負荷が非常に軽減されたように思います」と、佐々木洋司課長(財務経理部IT課、内部統制室IT担当兼務)はその統合効果を語る。

ただし完全統合したことで、万一サーバーに障害が発生した場合、グループ全社の業務に支障をきたすというリスクが高まった。そこで今年5月のサーバー統合を前に、昨年末からHAソリューションの検討を開始したのである。

### サーバー統合に伴い 2重化体制を構築

System i上で運用可能なHAソリューションの中で、同社がBitis HAを選択した理由について、佐々木氏は次のように指摘する。

「同期のリアルタイム性や使用するリ



佐々木洋司氏  
財務経理部 IT課  
課長  
内部統制室 (IT担当)  
兼務

ソースの負荷、レスポンスなどを総合的に評価した際のバランスのよさに加えて、他製品と比べたコストパフォーマンスのよさが最終的な決定要因になりました」

本番機である550上では、開発用、グループ関連会社用、ジャパン建材用と3つのLPARを設定している。これに対して、バックアップ機である525上では、グループ関連会社用のバックアップ区画と、ジャパン建材用のバックアップ区画の2つのLPARを設定した。System i上で稼働している販売管理および財務会計システムのほぼすべてのデータとオブジェクトを同期している。

本番機は東京本社に、バックアップ機は災害発生時を考慮して大阪事務センターに設置した。

「金融や流通・製造など、わずかな時間もシステムを停止できないミッシ

ョンクリティカル性の高い業種・業務と違って、住宅建材の卸し業務は万一システムが停止しても、半日程度は手作業での業務継続が可能です。ですから、Bitis HAという製品自体は30分程度でバックアップ機に切り替える機能を備えていますが、当社では、障害の状況からシステム停止が半日以上に及ぶと判断される場合にのみバックアップ機に切り替えることを方針としています。重要なのは、停止時点までの全データが正確に保存されることであり、それを目的に設計しました」(佐々木氏)

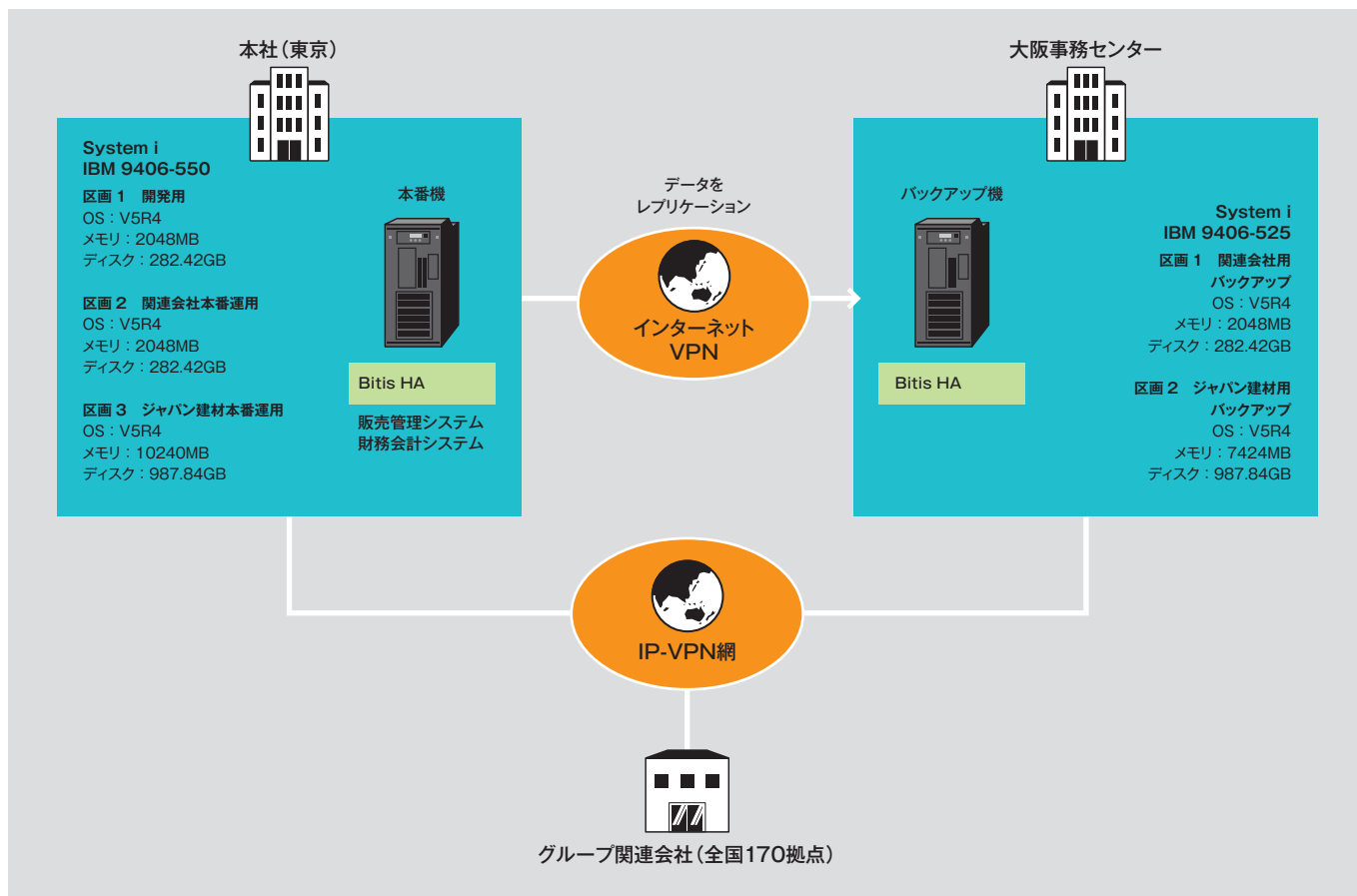
Bitis HAでは、データの整合性を保ついくつかの独自機能をサポートしている。

例えば、操作ミスなどで本番/バックアップ機間のファイルの同期が崩れてしまうケースがある。こうした場合、一般には本番機ファイルへのエン

ドユーザーのアクセスを制限し、再同期処理(物理・論理ファイルの再送)を実施する必要がある。しかしBitis HAでは、Check Sync機能を使用して、エンドユーザーのアクセスを制限することなく、同期回復を自動的に実行できる。

また導入作業が終了してからも、System iにライブラリーが追加されるケースもよくあるが、その際、Bitis HAの同期対象設定ルールを使用すれば、同期対象となるライブラリーが新たに作成された場合でも、ライブラリーの設定追加作業や、手動による同期開始処理を実施することなく、自動実行が可能になる。

このように、自動化機能を最大限に駆使して省力化を図りつつ、データ同期の整合性を完全に保つHAソリューションの運用が、同社のサーバー統合を舞台裏で支えているようだ。①



図表 JKホールディングスのシステム概要